

基本目標Ⅱ

市民力・日本一！

若者が集い、住みたくなるまちをつくる

鯖江市は、学生を中心とした若者や女性を市政の「パートナー」と位置づけ、若者や女性の柔軟で豊かな発想や創造力を市政に活かす学生連携事業に先んじて取り組んでおり、近年では、こうした取組みに参加した学生や若者が鯖江市に定住して地場産業に携わるようになるなど、成果が現れつつあります。芽生え始めたこの流れを確かなものにするために、鯖江市の最大の武器である「ものづくり」の魅力と可能性に惹かれて移住・定住した若者達のチャレンジを全力で応援していきます。また、鯖江市に住む全ての人たちが、ふるさとに愛着と誇りを感じることができシビックプライドの醸成を推進するとともに、全ての市民が主体的にまちづくりに参加できる「市民主役」「市民協働」の取組みをさらに加速させ、「市民力」がさらに高まるよう、すべての市民が絆を強め、特色を高める地域づくりを推進し、「住みたくなる・住み続けたくなるまちづくり」に正面から取り組みます。さらに、本市の取組みに関心を持つ企業や大学等から連携事業が提案されるなど、関係人口の増加が認められることから、シティプロモーションを強化するなど関係人口の獲得にも取り組むとともに、鯖江市の魅力と先進的な取組を「つくる、さばえ」というキーワードで結びつけながら、自覚的に内外に発信することで、定住人口の増加につなげていく長期的な視点でのブランド力強化に注力します。

KPI（成果指標）	単位	現状値	目標値
若者の社会減の抑制	人	△151	人口ビジョン完成後 決定予定

基本
施策

- 1 若者の夢を応援するまち
- 2 さばえファン（関係人口）の獲得
- 3 河和田キャンパス（創造産地）の構築
- 4 市民主役で絆を強め、特色を高めるまちづくり
- 5 地域資源を活かす観光の推進
- 6 シビックプライドの醸成
- 7 地域ブランド力の向上

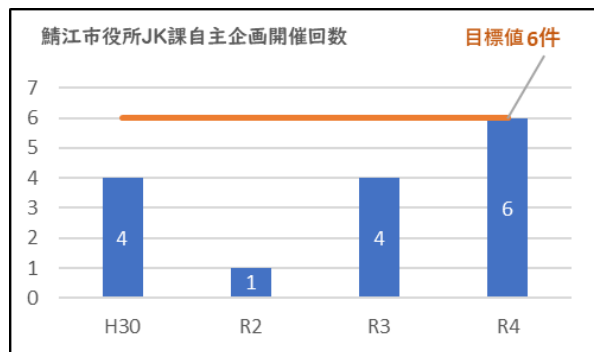
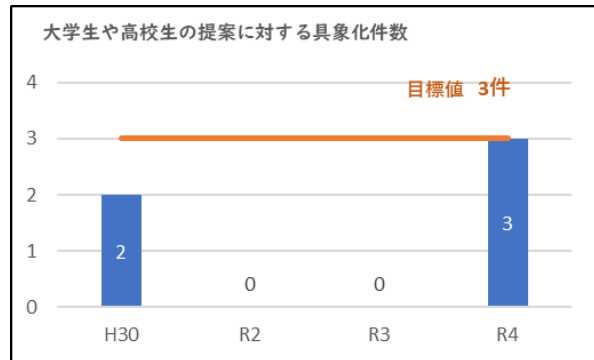
基本施策Ⅰ 若者の夢を応援するまち

優先的
改善項目

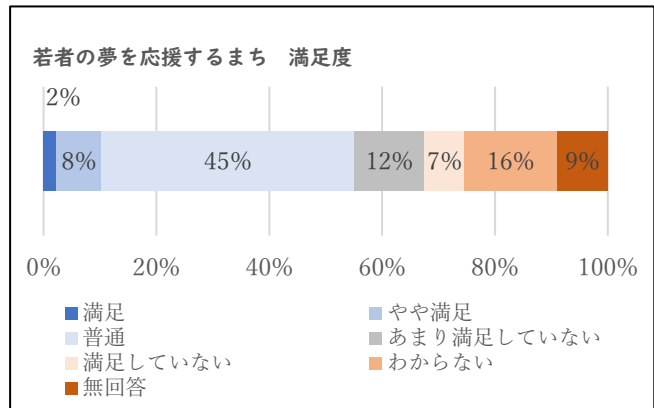
■ 現状

- 若者による地域活性化推進事業や鯖江市役所JK課プロジェクトとの活動をはじめ、鯖江高校生・さばえSDGs部との連携事業など、若者による創造力を市政に活用する事業に注力してきました。
- U・Iターン者に対する支援事業を実施してきました。
- ものづくりに惹かれて鯖江市に定住する若者を全力でサポートし、「住みたくなる・住み続けたくなるまちづくり」を目指しています。
- 近年は、転出者の増加と転入者の減少の割合が大きくなっています。
- 転入・転出を年齢で分析すると、10代後半から20代前半の転出者が多く、20代後半から30代前半の転入者が多い傾向にあります。
- 大学等への進学を機に都市部へ転出する人が多い一方で、転入は住居取得による近隣市町からの異動が多いことがわかってきました。

■ 関連データ



■ 市民満足度・市民の考える重要度



重要度

3.97

(5点満点・アンケート平均3.89)

■ 課題解決に向けて取り組むべきこと

- ・学生連携事業については、「若者の夢を応援するまち」として、活動したい分野や方向性を把握し、本当にやりたいことを実現できる支援体制づくりが必要です。
- ・自然増減数が減少していく中で社会増減数を維持、増加させていくためには、県外からのU・Iターンを増加させることが重要であり、鯖江で育つ若者の「ふるさと愛」の醸成が必要です。

令和10年度において目指すべき方向性

- ・若者による創造力を市政に活用する学生連携事業やU・Iターン者に対する支援事業を実施します。
- ・「ものづくり」のまちの魅力を最大限に発信し、ものづくりに惹かれて鯖江市に定住する若者を全力でサポートします。
- ・市内高等学校の魅力向上を支援します。

デジタルの力でできること



- ・
- ・

■ 計画期間の方向性（実施施策）と手段（実施事業）

① 学生連携事業

実施事業	事業内容
若者による地域活性化推進事業	市内外の若者のアイデアと行動力を活かしたまちづくりを推進するため、学生が鯖江の未来像を提案する「地域活性化プランコンテスト」を実施し、プランの具現化を検討することで地域活性化を推進します。

② 高校生のまちづくり参加の促進

実施事業	事業内容
鯖江市役所JK課プロジェクト事業	まちづくりへの関心が低いといわれてきた女子高校生をまちづくりの主役とした「鯖江市役所JK課」の活動を支援し、大人を巻き込み、「まち」や地域の「大人」が変化していくことを目的とした市民協働プロジェクト事業を実施します。
鯖江市役所JK課プロジェクトサポート事業	JK課プロジェクトの運営の一部を分割し、斬新で市民の方々も参加したいと思ってもらえる企画の立案を市民団体がサポートする事業を実施します。

③ 市内高等学校等の魅力向上

実施事業	事業内容
めがねのまちさばえ探究活動事業	将来の鯖江市を担う地元の高校生に対し、住むだけのまちから何かをしたいと思えるまちへの意識変革を促すため、市・商工会議所と連携した探究活動を実施します。

■ K P I (成果指標)

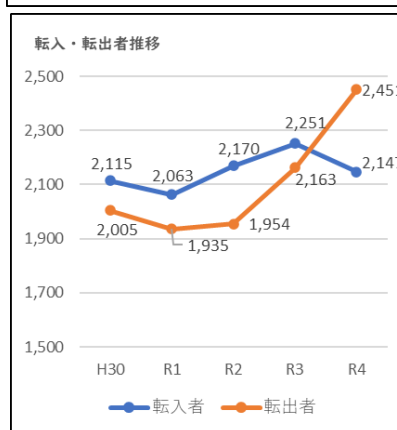
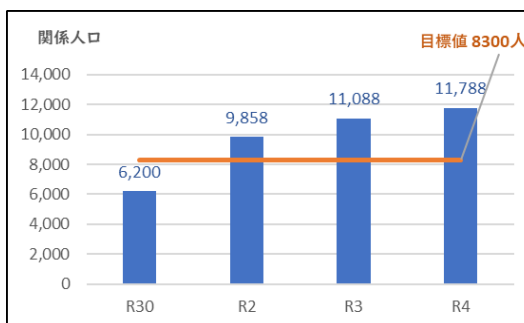
K P I (成果指標)	単位	現状値	目標値
大学生や高校生の提案数	数	8	10
J K課が地域を巻き込み行う 自主事業数	数	2	3
J K課プロジェクトサポート 新企画数	数	1	2
市内高等学校への伴走支援数	数	—	4
移住相談件数	件	144	200
市ホームページ定住・交流情報 サイトアクセス数	件	5,129	5,700

基本施策2 さばえファン（交流・関係人口）の獲得

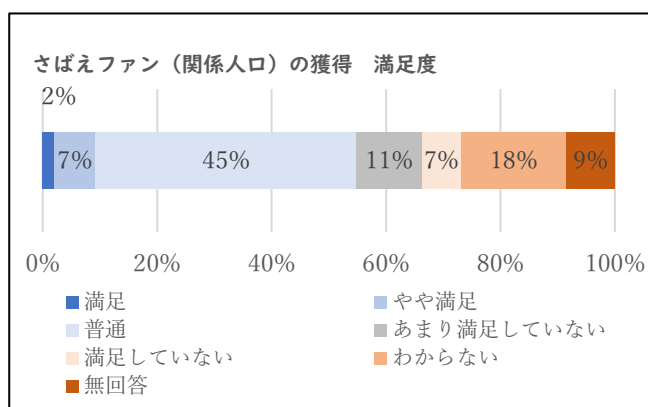
■ 現状

- 本市の先駆的な取組みやものづくり・歴史・伝統・文化といった魅力ある資源を様々な手段で広く発信してきました。
- 本市に関心を持ち、かかわりを持ちたいと思う団体、企業、大学と積極的に連携協定を締結し、関係人口の増加を目指してきました。
- ものづくりに惹かれて鯖江市に定住する若者に向け、鯖江市の「ものづくり」の魅力を発信しています。
- こうした取組みが功を奏し、企業からの聞き取り調査での新規若者移住・就業者数は増加しています。
- 全体で見ると、転出者の増加と転入者の減少の度合いが大きくなっています。（再掲）
- ふるさと納税をきっかけとした鯖江ファンの獲得を目指してきました。
- 鯖江市の地方創生の考え方に共感する企業の寄付金を効果的に活用できるよう、「企業版ふるさと納税基金」を創設しました。

■ 関連データ



■ 市民満足度・市民の考える重要度



重要度

3.78

(5点満点・アンケート平均3.89)

■ 課題解決に向けて取り組むべきこと

- 市だけでなく、市民や団体、企業等と協働して、鯖江市の魅力を効果的に発信することが重要です。
- 関係人口のなかから、それぞれの関わり方を尊重しながらも、移住者につなげていく施策の充実が必要です。

令和10年度において目指すべき方向性

- ・引き続き、本市の先駆的な取組みやものづくり・歴史・伝統・文化といった魅力ある資源を様々な手段で広く発信します。
- ・魅力ある資源を発信することで、オンライン関係人口の創出・拡大など、カジュアルに都会の人が地方と関わるきっかけづくりを推進します。
- ・地域を繰り返し訪ね、住民と来訪者の関係性を深める、第2のふるさとづくりを推進します
- ・本市に関心を持ちかかわりを持ちたいと思う人や企業、大学を増加させ、将来的に移住・定住人口の増加につなげていきます。
- ・企業等におけるワーケーションの取組を支援します。
- ・ふるさと納税、企業版ふるさと納税の獲得に注力します。

デジタルの力でできること



- ・ SNS 活用によるオンライン関係人口の創出

■ 計画期間の方向性（実施施策）と手段（実施事業）

① 移住・定住促進

実施事業	事業内容
移住就職支援事業	移住者に対し支援金を支給することにより、移住に係る初期費用の支援を行い、鯖江市への移住を促進します。
さばえものづくりファン創出事業	県外の大学生を対象に、鯖江で生活しながら仕事を体験できるプログラムを開催するとともに、実施以後の調査・分析を行い、市内の雇用・移住促進につなげます。
移住・交流情報発信事業	全国の移住フェアへの参加や、メディアや SNS での移住情報の発信を通して、鯖江市への移住を促進します。
鯖江市子育て世代応援企業移住就業奨励金事業	鯖江市子育て世代応援企業で働く移住者の就業を支援します。

② 交流・関係人口の獲得

実施事業	事業内容
大学連携事業	連携大学の市内フィールドワークなどの課外活動への支援や大学の交流事業に参加することで、交流・関係人口の拡大を図ります。
若者による地域活性化推進事業	市内外の若者のアイデアと行動力を活かしたまちづくりを推進するため、学生が鯖江の未来像を提案する「地域活性化プランコンテスト」を実施し、プランの具現化を検討することで地域活性化を推進します。

③ ふるさと納税・企業版ふるさと納税の獲得

実施事業	事業内容
ふるさと納税返礼品の開拓と PR 強化	本市の伝統産業である、眼鏡、繊維、漆器などを軸とした新規返礼品の開拓や、既存返礼品の PR を強化することで、本市のさらなるファン拡大を目指します。
企業版ふるさと納税の獲得	鯖江市の総合戦略に記載されている事業について、中間事業者等を通じて広く発信し、市の理念に賛同する連携企業を増やすとともに、物納や人材派遣など新しい制度での寄附を広く受け付け、民間資金を総合戦略実現のため有効活用します。

K P I (成果指標) (案)

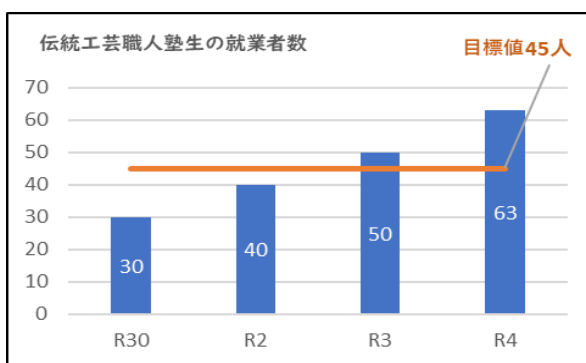
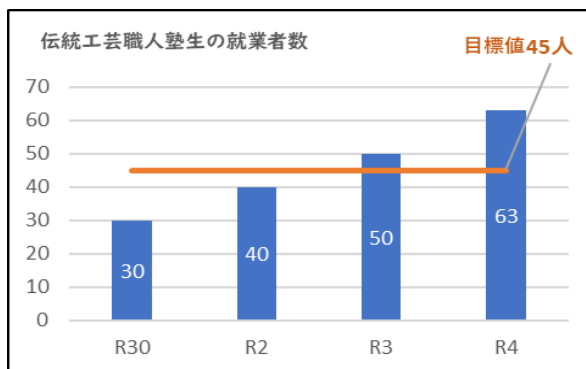
K P I (成果指標)	単位	現状値	目標値
関係人口	人 (累計)	11,788	12,500

基本施策3 河和田キャンパス（創造産地）の構築

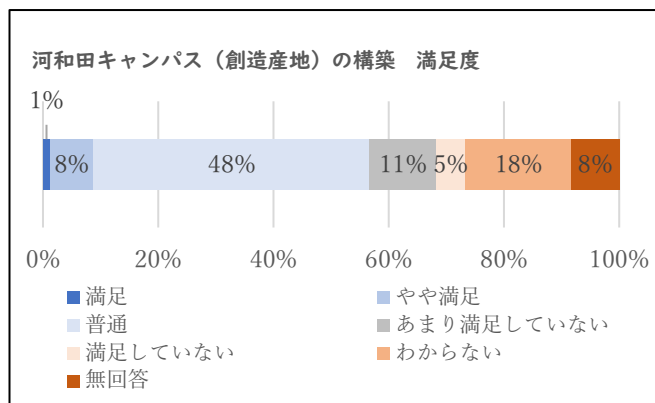
■ 現状

- 「うるしの里」河和田地区の伝統的な地域産業や自然、文化等の地域資源を積極的に発信してきました。
- 伝統的地場産業（漆器）の技術を習得したい若者に対し支援を実施してきました。（鯖江市伝統工芸職人塾）
- 越前漆器に代表される河和田の魅力を体験できる受け皿として、工房ショップ等の改修を支援してきました。
- 福井豪雨をきっかけに始まった「河和田アートキャンプ」は新型コロナウイルス感染症の影響で一旦休止しましたが、令和4年度から河和田地区と豊地区で開催する「さばえ Cross Art」として再開しました。
- 「見て・知って・体験する」が可能な工芸産地を目指し、毎年10月に「RENEW」を開催しています。
- 河和田地区における若者の新規移住や就業者数は増加しています。

■ 関連データ



■ 市民満足度・市民の考える重要度



重要度

3.47

(5点満点・アンケート平均3.89)

■ 課題解決に向けて取り組むべきこと

- ・鯖江市伝統工芸職人塾やさばえ Cross Art の参加者を増やすとともに、参加者が鯖江市での就職を希望した場合の仕事の創出や、定住につながる魅力づくりを進める必要があります。
- ・工房ショップについては、開設・改修の支援だけでなく、その後の販路開拓などの伴走支援も必要です。

令和10年度において目指すべき方向性

- ・引き続き、「うるしの里」河和田地区の伝統的な地域産業や自然、文化等の地域資源を積極的に活用した交流事業や、環境整備事業を実施することにより、交流人口・定住人口の増加を図り、地域の賑わいを創出します。
- ・河和田地区の伝統的な地場産業の魅力を積極的に発信するとともに、伝統的地場産業を習得したい人への支援をはじめ、河和田地区で、起業、就業したい人へのサポートや、移住・定住に対する暮らしのサポートを行います。

デジタルの力でできること



- ・独自の電子決済システムの導入支援

■ 計画期間の方向性（実施施策）と手段（実施事業）

① 河和田地区への移住・定住促進

実施事業	事業内容
さばえ Cross Art 事業	県内外の大学生が地域住民との交流を図り、芸術やデザインと結びつけたプロジェクトを支援します。

② 交流人口増加への取組

実施事業	事業内容
さばえ Cross Art 事業	県内外の大学生が地域住民との交流を図り、芸術やデザインと結びつけたプロジェクトを支援します。
工房ショップ等改修支援事業	眼鏡・繊維・漆器等の産直ショップ開設や改修の一部を支援します。
産業観光推進事業	作り手たちとつながる体感型マーケット「RENEW」を支援します。
越前ものづくりの里プロジェクト	越前漆器の技術伝承と後継者育成および産地振興を支援します。

■ KPI（成果指標）

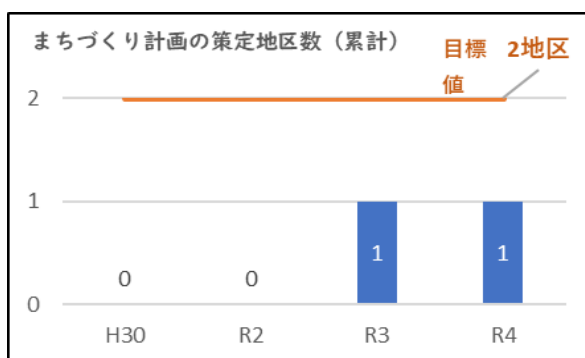
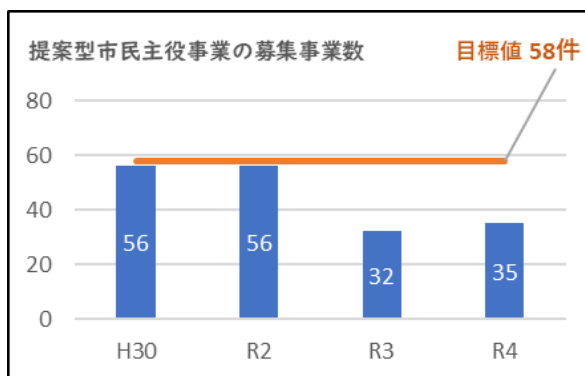
KPI（成果指標）	単位	現状値	目標値
新規若者移住・就業者数	人	85	120
工房ショップ等改修件数	件	21	25

基本施策 4 市民主役で絆を強め、特色を高める地域づくり

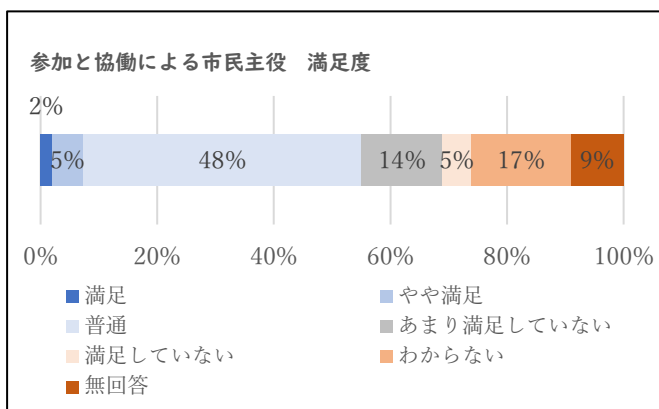
■ 現状

- 平成7年に開催された世界体操競技選手権にはのべ3万人のボランティアが参加し、官民一体となって大会を盛り上げました。また平成11年に市民活動交流センター（さばえNPOセンター）が開設し、市民活動の拠点施設となりました。
- 平成22年に、市民提案から「鯖江市市民主役条例」を制定し、「市民主役」「市民協働」のまちづくりを進めてきました。
- 「提案型市民主役事業」や「まちづくり基金」を活用した事業などで、公益的な事業に市民の力を、積極的に取り入れてきました。
- 市民がふるさとに愛着や誇りを持ち、「自分たちのまちは、自分たちでつくる」という信念のもと、自らが市政に直接的に参画する「市民力」の高さが、鯖江市の最も特徴的な強みのひとつです。
- 各地区において住民自らが創意工夫を凝らした事業を行い、地区の活性化に取り組む住民自治が盛んに行われてきましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で休止する事業もみられます。

■ 関連データ



■ 市民満足度・市民の考える重要度



重要度

3.60

(5点満点・アンケート平均3.89)

■ 課題解決に向けて取り組むべきこと

- ・鯖江市の宝である「市民力」を今以上に高めるため、市民活動交流センター（さばえNPOセンター）の持つ交流機能を強化していく必要があります。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響で一旦休止した各地区の事業などを再開し、市民がいきいきと活躍できる居場所づくり、絆づくりを改めて推進する必要があります。

令和10年度において目指すべき方向性

- ・市民協働のまちづくりを目指した「市民主役条例」に基づき、市民がふるさとに愛着や誇りを持ち、自らが市政に積極的に広く参画するような、市民主役、全員参加の活気あるまちづくりに努めます。
- ・市民が主役のまちづくりを推進していくため、「市民主役所」構想のコンセプトを取り入れつつ、市民団体とのヒアリング等を通し、施設のあり方や機能強化に努めます。
- ・各地区において住民自らが創意工夫を凝らした事業を行い、地区の活性化や特色づくりを進める住民自治を支援します。
- ・「市民主役のまちづくり」の見える化を継続し、担い手育成や関係人材の拡大に努めます。

デジタルの力でできること



- ・申請手続きのオンライン化による市民サービスの向上
- ・電子回覧板アプリによる区長事務軽減および伝達ネットワークの強化

① 市民主役の推進

実施事業	事業内容
市民協働まちづくり基金事業補助金	市民の公共的活動への参画促進のため、市民提案による新たな公益的事業への助成を行います。
提案型市民主役事業化制度	市が行っている公共的な事業の中から、市民の提案により新しい公共の担い手として自ら行った方が良い事業を市民主役事業として創出することで、公共における民間と行政との役割分担を見直し、市民の自治力を高めます。
まちづくり計画の策定	「自分たちのまちは自分たちでつくる」住民の意識醸成を図るため、まちづくり計画を推進します。
市民主役フェス	「市民主役のまちづくり活動の見える化」を継続し、拠点施設であるNPOセンターの入居団体、関係団体主体が新たな市民層にアプローチするイベントを実施します。

■ K P I (成果指標)

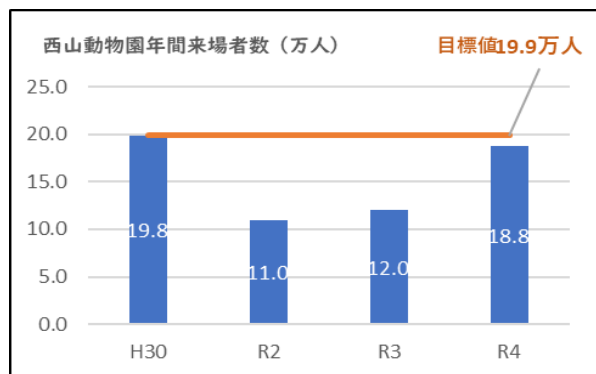
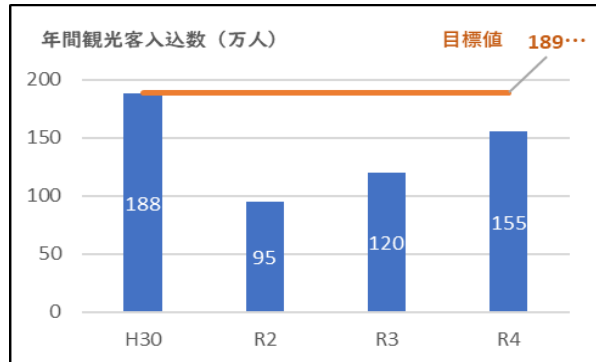
K P I (成果指標)	単位	現状値	目標値
まちづくりの提案をする団体数	団体	5 2	6 0
まちづくり基金事業採択数	件	1 3	1 5
提案型市民主役事業採択数	件	3 5	4 0
各地区のまちづくり計画の策定	地区	1	3

基本施策5 地域資源を活かす観光の促進

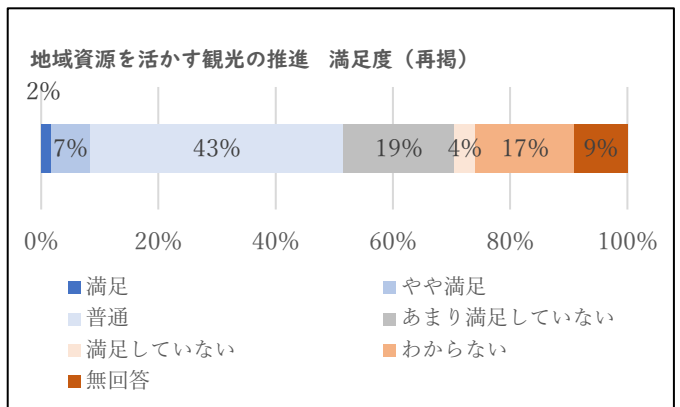
■ 現状

- 冠山峠道路開通や北陸新幹線福井・敦賀開業を間近に控え、大きく人の流れが変わることを見据えて、観光振興に注力しています。
- 最大の観光地であり、市民の憩いの場である西山公園・西山動物園の魅力向上と利用促進に努めてきました。
- ものづくりのまちである鯖江市の地域資源を活かし、オープンファクトリーなどの産業観光を推進しています。
- コロナ禍における行動制限に加え、観光誘客に向けた積極的広報ができない期間が続いたため、観光客数は伸び悩んでいます。
- 北陸新幹線金沢・敦賀駅間開業を見据えて、魅力あるまちづくりのため、鯖江駅の利用促進、魅力向上を検討してきました。

■ 関連データ



■ 市民満足度・市民の考える重要度



重要度

3.71

(5点満点・アンケート平均3.89)

■ 課題解決に向けて取り組むべきこと

- 新幹線停車駅のある越前市からの誘客を促進するため、丹南地域全体の広域観光を推進していく必要があります。
- JR（ハピライン）鯖江駅、中心市街地、西山公園等を面でとらえ、インバウンド消費にも対応できる観光の充実が必要です。

令和10年度において目指すべき方向性

- ・冠山峠道路開通や北陸新幹線福井・敦賀開業を間近に控え、大きく人の流れが変わることを見据えて、観光分野のDX推進や二次交通の充実を通して、旅行者の利便性向上及び周遊促進、観光産業の生産性向上、観光地経営の高度化等を図ります。
- ・西山公園一帯の自然環境や眼鏡・繊維・漆器に代表される「ものづくり」産業などを地域資源と捉え、県内外との広域連携も視野に入れながら、インバウンド消費にも対応できる観光の振興を図ります。
- ・最大の観光地、かつ市民の憩いの場である西山公園・西山動物園を更に充実し、利用促進に努め、中心市街地と連携したまちなかの魅力向上につなげます。
- ・鯖江駅、西鯖江駅、西山公園、嚮陽会館や道の駅一帯をエリアと捉え、賑わいの導線の構築を研究するなど、整備計画の策定を検討します。
- ・サンドームから市内観光への誘客方法について検討します。
- ・観光プランの整備や情報発信の充実に努め、まち歩きができるような特色ある観光施策を進めます。
- ・丹南地域全体の広域観光についても推進し、観光スポット間を行き来できる2次交通の整備を推進します。
- ・「うるしの里」河和田地区の伝統的な地域産業や自然、文化等の地域資源を積極的に活用した交流事業や環境整備事業を実施することにより、交流人口や移住・定住人口の増加を図り、地域の賑わいを創出します。

デジタルの力でできること



- ・人流データを活用した観光プロモーション
- ・MaaSやキャッシュレス決済の導入を支援

① 産業観光の充実

実施事業	事業内容
産業観光推進事業	作り手たちとつながる体感型マーケット「RENEW」の支援や観光客の二次交通対策に取り組みます。
漆文化のユネスコ無形文化遺産登録支援事業	越前漆器協同組合が実施する、漆文化のユネスコ無形文化遺産登録に向けた取組みを支援します。

② 広域観光の推進

実施事業	事業内容
広域観光推進事業	近隣市町と連携した観光誘客や二次交通対策に取り組みます。
越前ものづくりの里プロジェクト	越前漆器の技術伝承と後継者育成および産地振興を支援します。

③ 西山公園エリアの充実

実施事業	事業内容
西山公園施設改修事業	利便性向上のための施設整備や老朽化した公園施設の改修を行います。
西山公園夜間景観演出事業	桜やモミジのライトアップや冬季のイルミネーションを実施します。
西山公園利用促進支援事業	西山公園で実施するイベントに対して補助金を支出し、にぎわいづくりを創出します。
西山動物園充実事業	老朽施設の改修や動物園施設の整備、魅力的なイベントの開催やSNS等を使用した動物たちの情報発信を行い、西山動物園の充実を図ります。
ナイトコンテンツ造成事業	商業と観光の賑わいづくりと西山公園の通年利用を目的に、西山公園のナイトコンテンツの充実を図り、新たな商業と観光の賑わいを創出します。
嚮陽会館複合交流施設整備事業	鯖江市のシンボリック施設である嚮陽会館のホール機能に、屋内遊技場と市民活動交流センターの機能を加え、施設の付加価値を高めるとともに鯖江駅、西鯖江駅、西山公園、嚮陽会館や道の駅一帯をエリアと捉え、賑わいの導線の構築を研究するなど、にぎわいの拠点として、西山公園エリア全体の魅力向上を推進します。

④ 観光プランの充実や情報発信

実施事業	事業内容
街なか観光推進事業	観光ガイドの育成や観光情報サイト「さばかん」を充実させ、観光客の滞在時間と消費額の増加を図ります。

⑤ 幹線交通網と二次交通網のネットワークによる地域公共交通網の形成

実施事業	事業内容
コミュニティバス運行事業	令和4年度に再編したつつじバスを運行するとともに利用促進のための企画切符やSNSを活用した情報発信を実施します。
福井鉄道福武線支援事業	第3次スキームに基づいた支援を実施し、県、沿線3市および福鉄を支援する市民団体との協働により利用促進を図ります。
ハピラインふくい支援事業	第3セクター会社として経営安定のための基金を拠出し、県、沿線市町との協働により利用促進を図るとともに駅利便性向上のため協力を図っていきます。
新たな交通手段導入検討事業	市民意見を聞きながら、デマンド交通など新たな交通手段の導入を研究します。
デジタルを活用したサービス向上事業	公共交通のサービス向上のため、複数の公共交通やそれ以外のサービス連携のため、MaaSの導入を検討します。
鯖江駅東口等整備事業	鯖江駅東口改札設置や駐車場等駅周辺整備を実施します。
タクシーを活用した観光モデル事業	新幹線駅ならびに鯖江駅から市内観光地への二次交通(タクシー)利用料金に対して補助を行う実証実験を行います。

⑥ ふるさとの歴史・芸術文化の再発見

実施事業	事業内容
まちなか芸術祭	シビックプライドの向上のため市の文化的地域資源である芸術文化・歴史を活かした事業を実施し、市の魅力を発信します。
近松が生まれ育ったまちさばえ発信事業	郷土の偉人浄瑠璃・歌舞伎作家近松門左衛門について学び親しみ顕彰する事業を実施します。
鯖江藩殿様体験学習会業務委託	鯖江の礎を築いた第7代藩主間部詮勝について学び親しみ顕彰する事業を実施します。
文化財活用事業	地域の文化財に触れ、身近に感じる機会を創出する事業を実施します。

■ KPI（成果指標）（案）

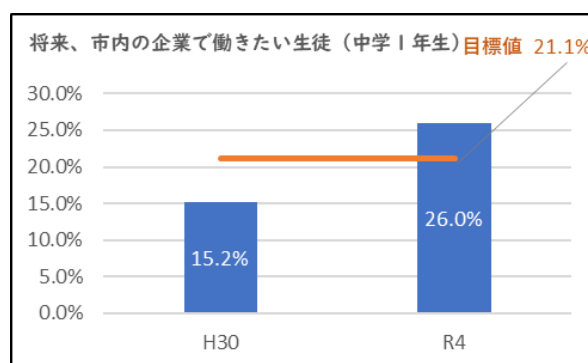
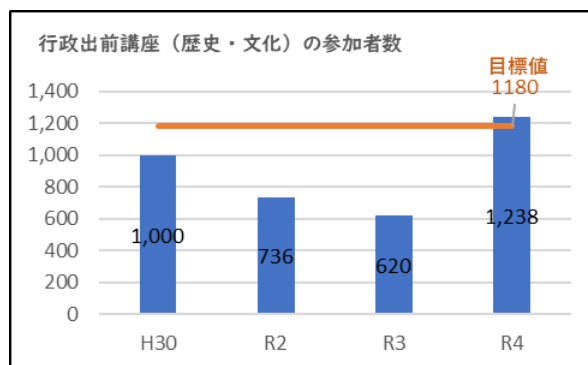
KPI（成果指標）	単位	現状値	目標値
年間観光客入込数	万人	155	200
産業観光施設年間来館者数 (めがねミュージアム、うるしの里会館、石田縞手織りセンター)	万人	22	30
西山公園来園者数	万人	81.1	90.0
西山動物園来場者数	万人	18.8	20.0
ふるさと学習の参加者数	人	1,238	1,300

基本施策 6 シビックプライドの醸成

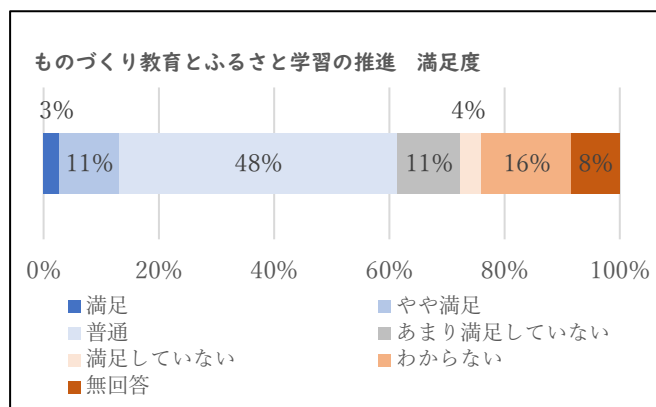
■ 現状

- ITのまちとして、市内小学校で子ども向けプログラミング教室を実施してきました。
- ものづくり体験等を通して伝統ある地場産業地場産業の魅力を理解する「ものづくり教育」を推進してきました。
- 地域の歴史や芸術文化を学ぶことを通じて、市民自らが、住んでいるまちの魅力を再発見し、ふるさとへの愛着と誇りを育むことを推進しています。
- SDG s 推進センターを拠点に、SDG s の推進にいち早く取組み、高校生を中心としたSDG s 部を立ち上げて、自らが考え行動するプラットフォームとしています。
- 「めがねのまちさばえ応援プロジェクト」を立ち上げ、地方創生とSDG s の目標達成をエンターテインメントの力でより推進していく取組みを行っています。
- 鯖江市役所JK課、鯖江高校生、さばえSDG s 部など、若者による創造力を市政に活用する学生連携事業に注力し、「ふるさと愛」の醸成に注力してきました。(再掲)

■ 関連データ



■ 市民満足度・市民の考える重要度



重要度

3.74

(5点満点・アンケート平均3.89)

■ 課題解決に向けて取り組むべきこと

- ・ コロナ禍で得られたバーチャル体験などの新しい知見も加え、鯖江市の歴史、芸術文化の魅力をより効果的に発信していく必要があります。
- ・ 地域の歴史・文化の伝承活動を行っている団体の支援等を行い、その活動に携わる人材育成を強化する必要があります。
- ・ 『教育大綱』の方針に則り、ITのまちとして、将来のIT人材の育成のため、市内小中学校で実施しているプログラミング教育をさらに充実していく必要があります。

令和10年度において目指すべき方向性

- ・引き続き、IT教育の推進やものづくり体験、SDGsの推進などを通して、地域の魅力を発信していきます。
- ・伝統ある地場産業の魅力を理解し、先人から受け継いだ地域の歴史や芸術文化を学び、顕彰するため、企業・団体・学校・学生らと連携し、感動体験を共有できるような事業を実施していきます。
- ・小中学校のふるさと教育を通してシビックプライドの醸成に努めます。

デジタルの力でできること



- ・デジタルコンテンツによる体験型のふるさと教育、史跡や文化財の公開
- ・プログラミング教育による鯖江発のICT社会を支える人材の育成

① IT教育の推進

実施事業	事業内容
クリエイティブ教育都市事業	市内の民間団体の協力を得ながら、官民連携による、専用パソコンを利用したプログラミング教育を拡充し、鯖江発のICT社会を支える人材育成を図ります。

② ものづくりを核としたふるさと教育の推進

実施事業	事業内容
産業を体験し理解を深める学習事業	児童が鯖江市の地場産業について理解を深めるため、眼鏡・漆器・繊維の製作体験を行います。
中学生体験活動支援事業費	中学校2年生が、将来就きたい仕事を見つけるため、市内の事業所で職場体験活動を行います。

③ ふるさとの歴史・文化の再発見

実施事業	事業内容
まちなか芸術祭	シビックプライドの向上のため市の文化的地域資源である芸術文化・歴史を活かした事業を実施し、市の魅力を発信します。
近松が生まれ育ったまちさばえ発信事業	郷土の偉人浄瑠璃・歌舞伎作家近松門左衛門について学び親しみ顕彰する事業を実施します。
鯖江藩殿様体験学習会業務委託	鯖江の礎を築いた第7代藩主間部詮勝について学び親しみ顕彰する事業を実施します。
文化財活用事業	地域の文化財に触れ、身近に感じる機会を創出する事業を実施します。

④ SDG s の推進

実施事業	事業内容
めがねのまちさばえSDG s 発信事業	地方創生とSDG s の目標達成をエンターテインメントの力により推進するとともに、そこでの感動体験を通して、SDG s の推進をいち早く実施した先進地としての誇りとふるさと愛を醸成します。
SDG s 教育推進事業	SDG s の理念を中学生が理解するための講演会等を開催します。また、小学生はSDG s 推進センターを訪問し、SDG s について学びます。

■ KPI (成果指標)

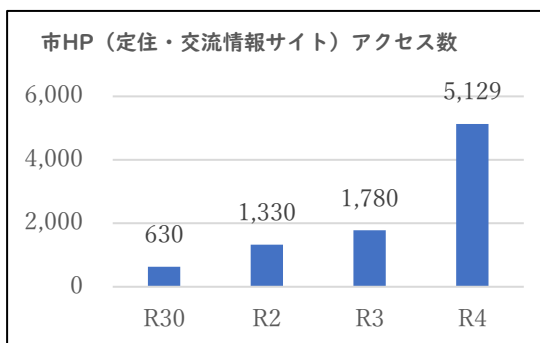
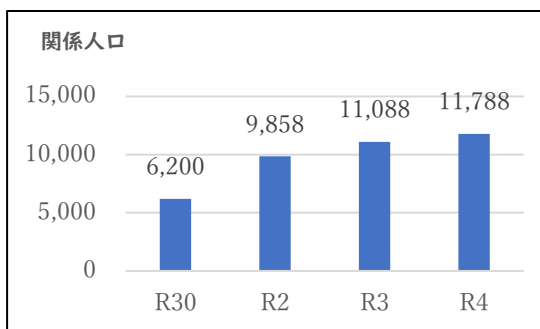
KPI (成果指標)	単位	現状値	目標値
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う割合	%	小学校 82.4 中学校 62.9	小学校 82 中学校 62

基本施策 7 地域ブランド力の向上

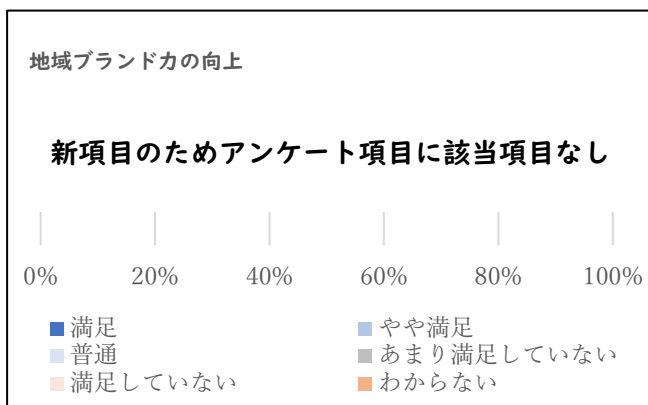
■ 現状

- 眼鏡産業だけでなく、眼鏡を含めた繊維や漆器、農業などの「ものづくり」、これらを支えてきた女性の活躍や歴史、文化、自然、環境、市民性など鯖江市固有の地域資源すべてを象徴する言葉として「めがねのまちさばえ」を世界に向けて発信してきました。
- 「めがねのまちさばえ」の知名度は、確実に上がってきています。
- 「めがねのまちさばえ応援プロジェクト」を立ち上げ、地方創生とSDGsの目標達成をエンターテインメントの力でより推進していく取組みを行っています。(再掲)
- 令和4年度にブランド戦略に関するタスクフォースを立ち上げ、市民と行政職員が一体となって、長期的なブランド戦略プラン「つくる、さばえ」を策定しました。

■ 関連データ



■ 市民満足度・市民の考える重要度



重要度

—

(5点満点・アンケート平均3.89)

■ 課題解決に向けて取り組むべきこと (案)

- ・「選ばれるまち」となるために、シティプロモーション活動を着実にやりながら、より長期的なブランド戦略を展開していく必要があります。
- ・「選ばれるまち」となるためには、社会情勢に対応し、絶えず地域のブランド価値を高め続ける必要があります。

令和10年度において目指すべき方向性（案）

- ・引き続き、「めがねのまちさばえ」という言葉に代表される鯖江市の地域資源を世界に向けて発信するシティプロモーション活動を、継続的に実施します。
- ・鯖江市の魅力と先進的な取組を「つくる、さばえ」というキーワードで結びつけながら、自覚的に内外に発信することで、定住人口の増加を促進し、内外に「選ばれるまち」となることを目指し、市民理解を進めながら長期的な視点でのブランド力強化に注力します
- ・地域の価値を高め続けるため、イノベーション創出に向けた場づくりを推進します。

デジタルの力でできること



- ・インフルエンサーと協働した鯖江市の魅力発信や情報拡散

① シティプロモーションの推進

実施事業	事業内容
鯖江の魅力発信事業	鯖江のまちなかや景色、食べ物などの情報を、インフルエンサーに発信してもらうなど、あらゆるメディアや媒体を使い、鯖江市の魅力を発信します。
めがねのまちさばえプロモーション事業	「めがねのまちさばえ」の知名度向上を目的に首都圏等でイベントを開催するなどのプロモーション活動を継続的に実施します。

② 地域ブランド力の向上

実施事業	事業内容
地域ブランド推進事業	「つくる、さばえ」をキーワードとした鯖江市のブランド戦略を、市内外へ発信し、市民理解を進めながら、長期的に鯖江市のブランドイメージを向上させる事業を実施します。
デザイン経営セミナー	デザイナーの手法や思考の方法をブランドの構築やイノベーション創出に活用する「デザイン経営」を学ぶセミナーを開催することで、市内企業の企業競争力を向上させ、創造的で持続可能な地域産業を醸成します。

③ 地域イノベーションの創出

実施事業	事業内容
地域イノベーション創出事業	「つくる、さばえ」の魅力に集う人材がさらに新たな「つくる」を生み出す好循環を目指し、イノベーションが起りやすいよう「地域イノベーションの拠点づくり」を行います。

■ KPI (成果指標) (案)

KPI (成果指標)	単位	現状値	目標値
関係人口	人	11,788	12,500